

社福法人と飲食店 連携

東三河版



銀河誕生
石川 隆雄
春陽会所属



障害者の就労お手伝い

障害者の就労を促進するため、豊橋市で授産施設を運営する社会福祉法人「豊生ら・ばるか」と、同市内などでトンカツやオムライス店を展開する会社「エッグ」が連携を始めた。その第

豊橋

一弾として同社が二十〜四十代の知的障害者三人を受け入れ、トンカツ店で就労訓練を開始。三カ月間で就労に必要な能力を身に付けることを目指している。
(石屋法道)

訓練で障害者は職場でのコミュニケーションから始め「いらっしやいませ」と客へのあいさつ、食器洗い、仕込み、盛り付けを学ぶ。店側も人生経験豊かなベテランスタッフを教育係に配置した。
同法人は授産施設でパンの製造や印刷業務などをし、障害者を雇用。これまでに公的な職業訓練施設も利用してきたが「施設や福祉調理場で食材の仕込みの方法を教わる障害者はい

トンカツ店に働きながら実践訓練

業界内での職業訓練では、どうしても実践的にならない」（夏目浩次常務理事）との悩みがあった。そこで、法人がエッグに働き掛け、就労訓練の場として障害者を受け入れてもらうことになった。夏目常務理事は「時には怒られたり、厳しかったりすることもあるだろうが、実際の現場の方が働くことが体に染みこむはず」と期待している。
連携の背景には、障害者の民間雇用が進まない現状もある。夏目常務理事によると、障害者の一〜二割しか就職できず、平均賃金も月一万数千円程度しかないという。「障害者が就職できていない現状を変えたい」との考えに賛同したエッグの加藤ゆり子社長は「働く意欲が出るような訓練をし、障害者が自立して就職できるようになれば」と強調。連携を通じて、障害者の雇用も進めるとい